

令和元年度の意見書の内容と進捗

令和2年6月8日に開催した美術展覧会実行委員会にて、令和元年度に文化振興審議会から提出いただいた意見書に基づいた事務局案を提案。議論の結果、下記の通り進めることとなった。

①運営体制

□現在、会長、副会長となっている市長、教育長は、運営の実態に合わせ、役職を見直すこと。

⇒市長の会長職継続を希望する意見が多数のため、会長、副会長の変更は行わない。

□キュレーター、学識経験者等を加え、運営体制の充実を図ること。

⇒次回会議より、学識経験者と学芸員の参加について了承。

学識経験者：成安造形大学 辻 喜代治 名誉教授
(草津市文化振興審議会 前副会長)

学芸員：滋賀県立近代美術館 平田 健生 専門学芸員

②実行委員の任期

□実行委員が固定されないことがないよう、審議会等の任期を参考にしながら、適切な任期を定めること。

⇒市の審議会等の基準に合わせ、任期2年、再任は連続2回まで(最大6年)を提案。後継者の推薦基準等の課題があり継続審議。

③審査の透明性

□審査の透明性を担保できるよう、審査員数、プロフィールの公表、公開審査等について検討を行うこと。

⇒プロフィールの公表について了承。公開審査の導入、審査員数については今後検討。

④部門の新設

□デザイン部門を新設する等、より多くの人が出品しやすい部門構成とすること。

⇒令和3年度からの試験的導入について了承。※今回議論テーマ

⑤草津市の独自性

□若者を対象とした賞の新設、市民参加型の展覧会とする等、他市との差別化、若者の出品促進を図り、草津ならではの展覧会を目指すこと。

⇒市展デビュー賞の新設について了承。

来場者投票等の市民参加型の展覧会、イオンモール等での個展開催権の授与、広告収入の導入等について継続審議。※今回議論テーマ